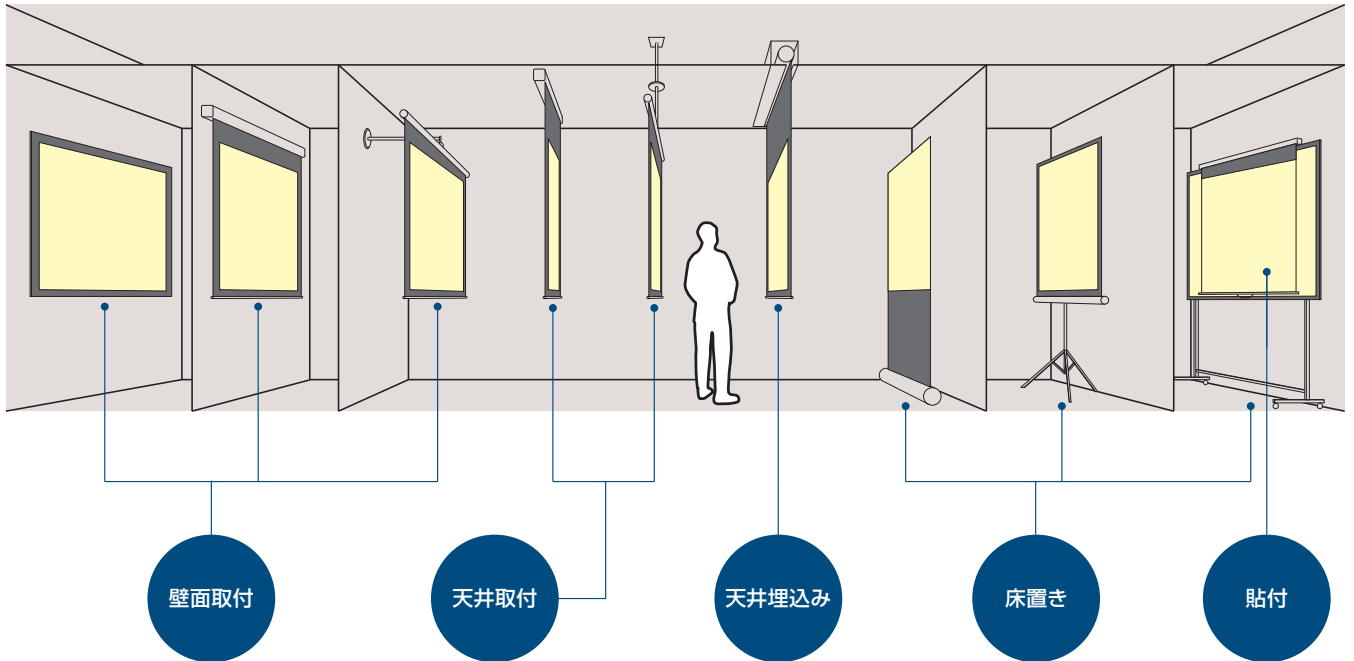


スクリーン選定のポイント -5-

スクリーンの設置方法

設置方法を工夫することで壁面スペースに関わらず取り付けられる場合もあります。設置場所や、使用頻度に応じてスクリーンの取り付け方法を決定します。



- 壁面取付**
 スクリーンを壁面に取り付ける方法です。張込常設と収納常設が可能です。
- 天井取付**
 スクリーンを天井面、あるいはスラブ*に取り付ける方法です。収納常設が可能です。
- 天井埋込み**
 スクリーンを天井に埋め込む方法です。収納常設が可能で、収納時には天井面に突起物などがなくすっきりと収まります。
- 床置き**
 スクリーンを床に置く方法です。簡易型になるので、スクリーンの移動や片付けが容易に行えます。インフレータースクリーンは、空気圧により自立します。
- 貼付**
 マグネットの力を利用して、黒板やホワイトボードの板面に貼り付けます。高い平面性が得られます。図は便宜的にスタンドをホワイトボードのイメージとしています。

* スラブ：鉄筋コンクリート構造で、床を支える板状のコンクリートのこと。設置方法：P.21 参照

スクリーンの収納方法

スクリーンの収納方法は大きく3タイプに分けられます。スクリーンを使用していない時の設置場所の利用の仕方、使用頻度などに応じてどのタイプが最適切を選択します。

常設		簡易(持ち運び可)			
完全常設(張り込み)	収納常設	<p>コンパクトで手軽に使用することができます。取り付けに関する設置工場の必要がありません。</p>			
<p>平面性に非常に優れています。使用しない時は、カーテンや扉などで幕面を保護することをお勧めします。</p>	<table border="1"> <tr> <th>電動</th> <th>手動(スプリング)</th> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>スペースを有効活用できます。手動は、ボールストップ・ソフトウインド機構やロータリーダンパー機構等により、スムーズな昇降が可能です。</p> </td> </tr> </table>		電動	手動(スプリング)	<p>スペースを有効活用できます。手動は、ボールストップ・ソフトウインド機構やロータリーダンパー機構等により、スムーズな昇降が可能です。</p>
	電動	手動(スプリング)			
<p>スペースを有効活用できます。手動は、ボールストップ・ソフトウインド機構やロータリーダンパー機構等により、スムーズな昇降が可能です。</p>					